

はじめに

令和4年第1回倶知安町定例町議会の開会にあたり、12月定例会以降における教育行政の主だった事務事業の執行状況及びその概要についてご報告いたします。

1 新型コロナウイルス感染症について

当町の小・中学校におきましては、1月冬休み明けにはコロナ感染状況は見受けられず、各学校においては感染症対策を十分行いながら教育活動を進めてまいりましたが、町内の幼稚園・保育所などでオミクロン株による感染症が発生したあたりから、家庭内感染と思われる子どもの陽性者や濃厚接触者が確認されるようになってきました。

町内小学校で陽性者が初めて確認されたのは1月27日。本人は無症状であり、前日の1月26日には登校していたため、学級内での感染状況を把握し、拡大防止の観点から翌日28日からの学級閉鎖といたしました。

その後は、各学校においても陽性者が確認されるようになり、2月15日までに、学校閉鎖2校、学級閉鎖10学級を数えております。

また、オミクロン株は感染力が非常に強い反面、重篤化する確率が低いといった性質から、保健所による積極的疫学調査の変更がありました。具体的には、児童・生徒に陽性者が1名でも確認された場合には、陽性者の登校状況から、校内での陽性者との接触状況の度合いなどについて、学校現場に判断が求められることとなり、感染拡大防止の観点から幅広く学級閉鎖等を実施する状況となっております。

時には早朝に陽性者が判明し、登校後すぐに学級閉鎖を行う事などもありましたが、各ご家庭においては感染防止の対応について十分ご理解くださり、子どものお迎えなどのご協力をいただきました。

児童・生徒の感染は、主に家庭内であると分析されていることから、感染症の対策は学校のみならず、各ご家庭においても協力していただくことが必要と考え、2月9日には危機管理室より情報提供された「家庭内感染の防止について」のリーフレットを学校安心メールにて全家庭へ配信しました。

学校においては、毎日、登校時に子ども達健康観察を行っており、発熱だけでなく、風邪症状（鼻水・咳・のどの痛みなど）がある場合は登校を控えること、また、家族にそのような症状がある場合にも登校を控えていただくなど、できる限り、

学校における集団感染を生じさせないように、繰り返し保護者へ周知しており、また、今後についても徹底してまいります。

学校に対しては、1月25日に町内小中学校長会を開き、従来の感染防止対策を更に徹底し、3密回避（こまめな換気、身体的距離の確保、マスク着用）、共用部分の定期的な消毒作業、特に感染リスクの高い教育活動（合唱、リコーダー、共同作業を伴う調理実習など）は控えるなど、学校に対し周知・徹底を行いました。

中学校の部活動については、外部訪問者との接触、感染リスクの高い行動の回避、可能な範囲でのマスク着用（ミーティング、軽度の運動、休憩時等）、活動終了後の感染防止行動の徹底などに注意しながら行っていましたが、感染状況の広がりを鑑み、2月5日から2月20日まで部活動を停止している状況です。

また、中学三年生は大切な受験期を迎えますので、特に心のケアを中心に、教職員一同で細やかな対応に努めているところです。

社会教育課所管施設では、総合体育館のトレーニング室で混雑時の利用時間・人数制限を継続中であり、2月2日、2月6

日は町内の感染状況を鑑み、幼児一般開放を中止したところですが、それ以外の各施設においては基本的な感染防止対策を実施しつつ、現在通常利用が可能な状況となっております。

引き続き感染防止対策を徹底しながら、北海道の「まん延防止等重点措置」等の発令内容や、町内の感染状況等を参考にしながら、各施設の利用制限や休館について適切に判断してまいります。

(学校教育課関連)

1 令和4年度の学級編制の動向について

令和4年度の学級編制にあたり、2月1日現在の主な状況について報告させていただきます。

小学校の状況については、令和3年度から少人数学級編制の拡大により、現在の1学年から4学年までに加え5学年も対象となります。

このことにより、2月15日現在、倶知安小学校は全学年が2学級の見込みとなっております。また、北陽小学校は全ての学級が1学級、東小学校は3学年が2学級、その他の学年は1学級、西小学校は4学年が2学級、その他の学年は1学級、樺山分校は複式の3学級となる見込みです。

また、中学校の状況では、1年生が134人、3年生が128人で4学級となりますが、2年生は112人で、基準学級数が3学級となる見込みであることから、町費教員の配置により学級編制の弾力化を行い、すべての学年を4学級でスタートさせたいと考えております。

なお、特別支援学級では、倶知安小学校で知的・情緒それぞれ1学級、北陽小学校で知的・言語・情緒それぞれ1学級、東小学校で知的・難聴・情緒それぞれ1学級、西小学校で知的・弱視・情緒それぞれ1学級、樺山分校で知的・情緒それぞれ1学級、倶知安中学校では知的・難聴・言語・情緒それぞれ1学級が編制される見込みです。

2 中体連スキー競技の全道・全国大会への出場について

中体連の冬季スキー競技は、毎年1月に全道大会、2月には全国大会が開催されます。

クロスカンントリー競技については、1月13日と14日の両日に和寒東山クロスカントリースキーコースにて開催され、男子1名、女子3名が出場しました。結果は、2年女子の新井朝海さんがクラシカル5位、フリー7位で入賞し、全国大会への出場権を手に入れました。また、女子リレーでは1年生2名と2年生

1名の3選手が力走し、見事3位に入賞しています。

また、アルペン競技については、1月14日と15日に富良野市富良野スキー場で全道大会が開催され、男子2名、女子1名が出場しました。初日14日の大回転は悪天候により中止となり、翌日15日は回転競技が開催されましたが、最高順位は女子の16位で、残念ながら入賞とはなりませんでした。

しかしながら、中止となった大回転の全国大会出場にあたっては、1月9日に糠平温泉郷で開催された代替大会の成績が判断基準となり、その大会で10位入賞していた3年女子の遠藤碧さんが全国大会出場となりました。

全国大会はコロナ禍の中、開催の中止も懸念されましたが、無観客ながら、2月1日から4日まで、クロスカントリー競技及びアルペン競技共に長野県野沢温泉村で開催されました。

女子選手2名は入賞とはならなかったものの、アルペンの遠藤さんは22位、クロカンの新井さんはクラシカル31位、フリー38位と全国の舞台で健闘してくれました。

3 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

昨年度、コロナ禍により中止となりました体力・運動能力、運動習慣等調査を2年ぶりに実施しました。

今年度は中学校の持久走は実施せず、小・中学校共に8つの種目を行いました。

本町の状況について報告いたします。

まず、小学校の男子では、握力、長座体前屈の2種目で全国を上回りましたが、他の種目は全国を下回り、体力合計点も全国を下回る結果となりました。

女子では、握力、上体起こし、20mシャトルラン、ソフトボール投げの4種目で全国を上回りましたが、体力合計点は全国をわずかに下回る結果となりました。

中学校の男子は、握力、上体起こし、20mシャトルラン、50m走、立幅とびの5種目で全国を上回り、体力合計点でも全国を上回っております。

女子では、全部の種目で全国平均を下回っております。

今回の結果については、コロナ禍による子ども達の運動機会の不足に十分対応しきれなかったことも要因の一つと考えられますことから、今後は、調査結果を踏まえ、子ども達が身体を動かすことを楽しみ、体力向上を図ることのできる取り組みを進めてまいります。

4 小学校の英語教育について

12月18日（土）に町内小学校6年生がケンブリッジ英検を受験いたしました。

平均値等の結果から学習到達度を読み取りますと、スピーキング力は、5点満点中4.3点で、6学年終了時の到達目標であるPreA1レベルに十分達していること、リスニング力は5点満点中3.3点で、PreA1レベルのボーダーラインに達していることを示しています。

一方で、リーディング・ライティング力は、5点満点中1.8点で、PreA1レベルより下にあります。

また、合計15点満点中、PreA1レベルである10点以上を獲得した受検者は全体の44%であり、6～9点を獲得した受検者は48%、その中でPreA1レベルに限りなく近い9点を獲得したのは17%であり、5点以下だったのは8%でした。

この結果から、倶知安町の6年生児童は、スピーキング力が最大の強みであり、シンプルなコミュニケーションのやり取りにおいては、既に英語を使うことができ、リスニング力においても一定程度の力は備わっていると判断できます。今後は、耳で英語に触れる機会や、より高いレベルの語彙に触れる頻度を更に高めることが求められます。

また、リーディング・ライティング力が世界基準に照らし合

わけて低いのは、現段階の日本の小学校における英語教育が「読み・書き」に重点を置いたもので無いことも影響していると思われます。この点を引き上げるためには、4年生終了時までの2年間の外国語活動の期間に、英単語をどのように読むのかという基礎的な力をつけていく必要があると分析しております。

今後は、この結果から得られた現6年生の強みと弱みについて、小学校から中学校へしっかりと引き継ぎ活かしていくことで、本町が目標とする『子どもたちの未来を拓く英語教育』の実現を目指した、英語力向上の取組を進めてまいります。

5 各種表彰について

西小学校の時田恵巳養護教諭が、「健康教育の指導充実に関する取組」の実践について高く評価され、令和3年度の文部科学大臣優秀教職員表彰(教職員組織表彰)を受賞しました。

(社会教育関連)

1 成人記念式典「はたちのつどい」について

1月9日倶知安町公民館大ホールにおいて、令和4年倶知安町成人記念式典「はたちのつどい」を開催いたしました。

式典には対象者の70%にあたる新成人80名が参加し、ご家族や関係者、来賓等は90名、合わせて170名の出席がありました。

新成人には、式典前14日間の体調を記入したチェックシートの提出をお願いし、来場者全員に対しては、手指のアルコール消毒の励行やマスクの着用、座席間隔の確保、といった基本的な対策に加え、式典規模の一部縮小や式典後の飲食に対する注意喚起等を徹底しながら式典を行っております。

こうした新型コロナウイルス感染防止対策によりまして、参加された新成人やご家族の皆様大変喜ばれ、厳粛で温かな式典となりましたことをご報告いたします。

2 町民向け英語研修について

令和3年度の町民向け英語研修は、日中に日常英語コース1クラス、夜間に仕事英語コース1クラスの計2クラスを設け、合計50名で実施しました。

研修期間中に緊急事態宣言が発出され、20時以降の外出を控えるよう要請があったことから、夜間実施の仕事英語コースの一部で、実施時間を変更する対応を余儀なくされたものの、受講者の皆さんのご協力もあり、令和3年6月25日から12月3日の期間で全16回の授業を完了することができました。

期間中に緊急事態宣言があったにもかかわらず、出席率は約75%となっていることから、参加者の英会話習得への意欲の高さがうかがえます。

なお、実施後に行ったアンケートの集計結果から、「大変有意義だった」または「有意義だった」の回答が、日常英語コースで94.4%、仕事英語コースで84.3%となっており、また、英語への理解が「大変深まった」または「深まった」の回答も全体で87%となっていることから、事業の実施については概ね効果的であったと考えます。

3 町営プール建替に向けた検討について

町営プール建替に向けた検討につきましては、令和4年9月までの基本構想策定業務期間の折り返しに差し掛かっております。

これまで、過去の利用実績の整理や、利用者アンケート、利用団体や関係者へのヒアリング等を通じて「旧町営プールの機能評価及び課題点の整理」を進めてまいりました。2月14日に第3回町営プール検討プロジェクトチームを開催し、進捗状況と今後の方向性に関して協議を行いました。

これまでは利用者目線での課題整理を行ったところですが、今後は広く「町民目線」での位置づけや、求められる機能について、アンケートや先進地事例調査によって整理していきたいと考えております。

引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

4 北京2022オリンピック町内出身2選手への応援活動について

本年2月4日から20日までに開催された北京2022オリンピック競技大会に、フリースタイルスキーモーグルの住吉輝紗良選手、バイアスロンの前田沙理選手の2名の本町出身選手が出場いたしました。

応援活動といたしまして、役場庁舎へ懸垂幕の設置や応援のぼりを掲示するなど、機運醸成のための広報活動を行いました。

また、1月28日には両選手のご父母と、関係者を招いての応

援会を開催し、両選手へエールをお送りしております。

このほか、学校教育課・社会教育課共同で、町内小中学生が保有するタブレット端末にて、両選手の経歴やインタビューなどの情報を掲載した特設HPを開設し、端末上から応援メッセージを書き込んでもらう取組を行いました。

最終的には300件程のメッセージが集まり、両選手のご父母を通じて選手本人へ届けられ、とても喜んでいただけたと伺っております。

北京オリンピックでの両選手の活躍に触発されて、ウィンタースポーツに取り組もうとする子ども達のためにも、引き続き町技であるスキーの普及や環境整備に取り組んでまいります。

むすびに

以上、第4回定例町議会以降の教育行政の主な事業について
ご報告申し上げましたが、事務事業の詳細につきましては、以
下に掲載しております資料をご参照いただきたいと思います。

これで教育行政報告を終わります。

(資料1) 会議などの開催状況及び事業概要 P 15～

(資料2) 各種工事、委託業務等の発注状況 P 21～